



室蘭工業大学

学術資源アーカイブ

Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive



## 樺太アイヌ語における人称のクラスと主格目的格人 称接辞：東海岸方言を中心に

メタデータ	言語: ja 出版者: 北海道言語研究会 公開日: 2019-09-04 キーワード (Ja): 樺太アイヌ語, 東海岸方言, 人称のクラス, 『アイヌ語ロシア語辞典』 キーワード (En): 作成者: 阪口, 諒 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/00010003">http://hdl.handle.net/10258/00010003</a>

樺太アイヌ語における  
人称のクラスと主格目的格人称接辞  
—東海岸方言を中心に—

阪口 諒

**The Classes of Personal Reference and Nominative-  
Objective Personal Affixes in Sakhalin Ainu  
—Focusing on the East Coast Dialects—**

**Ryo SAKAGUCHI**

**要旨:** 本稿では、樺太アイヌ語東海岸方言の人称の体系を Sato (1985) の視点を用いて分析した。特に Sato (1985) では扱われていなかった主格と目的格の両方が表示された例も対象とし、主格目的格人称接辞を検討した。その結果、一人称単数主格・二人称単数目的格や二人称単数主格・一人称単数目的格といった主格目的格人称接辞が不規則な形態を取る場合には、人称のクラスの区別が関わるが、目的格が複数になる場合には主格目的格人称接辞が一つの形式しか取らず、クラスの区別がないことを指摘した。最後に、Доброгворский (1875) 『アイヌ語ロシア語辞典』を対象に、人称のクラスを検討したが、Sato (1985) や本稿の分析が口語においても当てはまることを確認した。最後に樺太アイヌ語東海岸方言の主格目的格人称接辞の一覧を提示した。

**キーワード:** 樺太アイヌ語 東海岸方言 人称のクラス 『アイヌ語ロシア語辞典』

## 1. はじめに

樺太アイヌ語<sup>1</sup>において、一人称や二人称を主語や目的語にする場合、動詞には人称接辞が義務的に付加される。人称代名詞は文の必須要素ではなく、特に強調したいのでない限り、用いられないのが普通である。そして、人称代名詞を用いた場合においても、人称接辞が義務的に付加される。人称接辞のうち、動詞に付加されて主格を表示するものを主格人称接辞、目的格を表示するものを目的格人称接辞と呼ぶ。自動詞では主格人称接辞のみが付加される

<sup>1</sup> 本稿では日本・ロシア領になる以前から樺太（現サハリン）に居住し、1945年頃までこの地域で暮らしていた人々とその子孫に対する呼称として樺太アイヌを用い、その言語を樺太アイヌ語とする。樺太アイヌ語は西海岸方言と東海岸方言に大別される（知里 1973[1955]）。本稿で示すアイヌ語表記は服部（編）（1964:34）にしたがっている。母音音素は5つ（a, i, u, e, o）、子音音素は12個（p, t, k, c, s, r, m, n, w, y, h, '）である。音節頭には全ての子音が立つが、樺太の多くの方言で音節末に立つ子音はs, m, n, w, y, hの6つである。例文は、一段目に原文表記を、二段目には上記の原文を筆者の解釈で書き改めたものを掲載している。なお、母音の長短は原文で区別されている場合のみ書き分ける。また、必要がないかぎり、声門閉鎖音/'を省略している。例文の日本語訳は筆者によるものである。

が、他動詞の場合、主格と目的格が表示される（三人称は主格・目的格とも無表示<sup>2</sup>）。

樺太アイヌ語（以下では、断らないかぎり東海岸方言を指す）において、一人称目的格人称接辞に *i-*, *in-* の二つの形式があることが知られているが、この二つの形式には区別がないとされてきた（金田一 1960:129；知里 1973[1942]:495 など）。しかし、Sato (1985) は2つの形式に使い分けが存在することを指摘している。以下では、Sato (1985) で指摘されている人称の使い分けを再確認したうえで、主格・目的格が複合した場合にも使い分けがなされることを指摘する。そして、この使い分けは民話だけでなく口語でも確認できることを明らかにする。

### 使用テキスト

本稿の分析対象は、以下の樺太アイヌ語東海岸方言テキストである。【物語】は自叙伝であるが、【資料】【Tuita】【アイヌモシリ】は民話テキストである。【物語】【アイヌモシリ】はカタカナで筆記されているが、【資料】は独自のアルファベット、【Tuita】はキリル文字で表記されている。

【物語】<sup>3</sup>：山邊(著)・金田一(編) (1913) ※数字はページ番号

【資料】 1~27：Pitsudski (1912) ※数字は物語の番号+行数

【Tuita】 1~11：Пилсудский (2002) ※数字は物語の番号+行数

【アイヌモシリ】<sup>4</sup>：浦田(編) (1998) 中の樺太の民話 ※数字はページ番号

## 2. 樺太アイヌ語の一人称のクラスに関する先行研究

樺太アイヌ語における一人称の使い分けに関してはじめて指摘したのは Sato (1985) である。それ以前の金田一 (1960:129) や知里 (1973[1942]:495) では、2つの一人称目的格人称接辞 *i-*, *in-* は同一の形態素の自由変異だとされていた。Sato (1985) は樺太東海岸の民話集である【資料】を主な資料に、一人称目的格人称接辞 *i-* と *in-* の分析を行い、両者の用いられ方の違いを指摘している。Sato (1985) によれば、人称代名詞と人称接辞は同じクラスに属するものだけが一つの文の中に共起する (personal agreement rule 「人称一致規則」) が、一人称の人称代名詞、自動詞主格人称接辞、他動詞主格人称接辞、他動詞目的格人称接辞は、*anoka(y)/-an/an-/i-* (これ

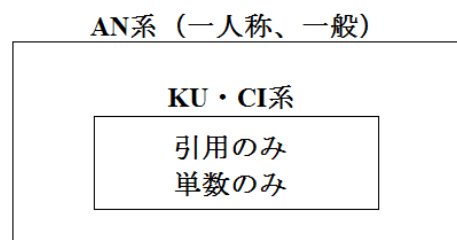


図 1. 一人称の使い分け (Sato 1985:164)

<sup>2</sup> 樺太アイヌ語西海岸北部ライチシカ方言の文法書である村崎 (1976) では、三人称複数接辞として *-(a)hci* が挙げられているが、*-(a)hci* は義務的に付加されるわけではなく、かつ人称接尾辞のさらに後ろに付加されることから、本稿では人称接辞として扱わない。

<sup>3</sup> 【物語】は、山邊安之助 (1867?-1923) が語った生誕から対雁への強制移住、日露戦争、南極探検などのエピソードを、言語学者金田一京助が纏めたものである。山邊氏は亜庭湾沿岸の弥満別で生まれたが、1875年の千島樺太交換条約の締結によって北海道へ移住した。後に樺太に帰還し、富内に移っている。

<sup>4</sup> 【アイヌモシリ】に含まれる樺太の民話に関しては阪口 (近刊) でも扱っている。

を AN 系<sup>5</sup>と呼ぶ)、kuani/ku-/ku-/?<sup>6</sup> (KU 系)、cooka(y)/-as/ci-/in- (CI 系) という 3 つのクラスに分けられる (表 1 参照)。一人称目的格人称接辞 i-, in- はそれぞれ AN 系、CI 系に属し、他のクラスのものとは共起することはない。AN 系は全ての条件下で一人称単数にも複数にも用いられるが、KU 系と CI 系は引用においてのみ出現し、常に単数として用いられる (図 1 参照)。KU 系と CI 系は共起する例があり、はっきりとは区別されていないが (例文 1、Sato 1985 に挙がっている例)、AN 系は KU 系、CI 系と同一の文の中で共起することはないという (表 1)。

表 1. 樺太アイヌ語東海岸方言における一人称のクラス (Sato 1985 を基に作成<sup>7</sup>)

人称代名詞	自動詞主格	他動詞主格 (目的格が三人称)	他動詞目的格 (主格が三人称)	略称	使用域
kuani	ku-	ku-	不明(in- <sup>8</sup> )	KU 系	単数・引用
cookay	-as	ci-	in-	CI 系	のみ
anokay	-an	an-	i-	AN 系	限定なし

- (1) Ku réské            ampe,    itakaś      cíki,    [【資料】 2, l.223]  
       ku-reske            anpe,    itak-as    ciki,  
       1SG.S-育てる    もの 話す-1SG.S    CONP  
       pirika    inu            eki            nankoro.  
       pirika    inu            e-ki          nankoro.  
       良く    聞くこと    2SG.S-する    VP  
       「私が育てた者よ、私の言うことを良く聞きなさい」

以上、Sato (1985) を概観したが、Sato (1985) は樺太アイヌ語には人称一致規則があり、一人称目的格人称接辞 i-, in- もそれに従って使用されていることを明らかにしている。しかし、目的格だけでなく主格をも表示する主格目的格人称接辞に関しては取り上げていない。また kuani, ku- と in- が共起する例が挙がっておらず、KU 系と CI 系の区別に関しても調査の余地がある。そこで本稿では、Sato (1985) の指摘をもとに樺太アイヌ語、特に東海岸方言を中心とした資料をさらに追加し、樺太アイヌ語における人称のクラスを再検討する。そして、Sato (1985) では扱われていない主格人称接辞と目的格人称接辞が複合した場合のクラスの有無に関して取り上げる。最後に Добротворский (1875) の例文を検討することで、Sato (1985) の分析が口語にも当てはまるかを確認する。

<sup>5</sup> 切替 (1989) の AN, CI 系を参考に、AN, KU, CI class の訳語としてそれぞれ AN, KU, CI 系とした。

<sup>6</sup> KU 系の目的格人称接辞を Sato (1985) では確認できない。

<sup>7</sup> 表の形式自体は中川 (2011:140) を基にしている。

<sup>8</sup> これは Sato (1985) では触れられていないが、第 3 章第 1 節の例文や、第 4 章で扱う Добротворский (1875) に見られる。

### 3. 主格目的格人称接辞

以下では主格と目的格を表示する主格目的格人称接辞について検討する。まず、Sato (1985) で扱われている一人称目的格人称接辞 *i-*, *in-* を再確認し、それが主格人称接辞と組み合わせあった場合を検討する。さらに、これまで検討されていない主格目的格人称接辞についても扱う。主格目的格人称接辞に関しても調査を行う理由は、これまで知られているアイヌ語のどの方言においても、一人称単数主格・二人称単数／複数目的格を表す主格目的格人称接辞 (KU, CI 系) は \**ku-e-*, \**ci-e-*, \**ku-eci-*, \**ci-eci-* のような単純な複合形を取らず、不規則な形式になるからである<sup>9</sup>。

#### 3.1. 一人称単数目的格

一人称単数目的格 *in-* の用例は【資料】に散見される。第2章で述べたとおり、Sato (1985) は、*in-* は *i-* の自由変異ではなく、異なるクラスに属するものだと指摘している。以下の例文(2)は、女性が漂着した男性たちに語ったセリフ（以下、直接引用文で述べたものをこう呼ぶ）である。用いられる人称はすべて CI 系に属するものである。

- (2) *Óokaj ne-ámpe pírika máxneku, íi né-kusu,*  
*cokay*<sup>10</sup> *neanpe pírika mahneku ci-ne kusu*  
PRON TOP 美しい 女性 1SG.S-COP CONP  
*pískan kamúi utara inránu kusu* [【資料】6, l.14-16]  
*pískan kamuy utara in-ramu kusu*  
周りの 神 PL 1SG.O-好む CONP

「私は美しい女性なので、周りの神々が私を好きになって」

例文(2)からは、人称代名詞 *cookay* が用いられる文で人称接辞 *ci-*, *in-* が出現しており、人称一致規則が確認できる（この文自体は Sato 1985 ですでに取り上げられている）。ただし、*in-ramu* 「私を好む」の主語は三人称の *kamuy utara* 「神々」であるので、主格人称接辞と組み合わせあった場合、*in-*, *i-* がどのように扱われるのかは分からない。Sato (1985) で扱われている例文も、ほとんどが三人称が主語の文、もしくは命令文であり、主格人称接辞が表示されていない例がほとんどである<sup>11</sup>。そこで以下では、主格人称接辞と組み合わせあった場合について検討する。

<sup>9</sup> 例えば、樺太の西海岸北部ライチシカ方言〔村崎 1976:50〕、北海道の沙流方言〔田村 1988:26〕・千歳方言〔中川 1995:10〕において、一人称単数主格・二人称単数目的格は *eci-* となる。なお、金田一 (1960:128) では *eci-* の存在は指摘されていない。それだけでなく「樺太方言（樺太で、雅語・口語何れにも）には（筆者註—北海道日高方言のように「我汝に与える」が *eci-* ではなく）少しも狂わずに（筆者註—*an-e-* という）抱合形が厳密に行われている」と述べられている。

<sup>10</sup> 以下、例文の原文で母音の長短が区別されていない場合、*cokay* と表記する。ただし、例文や引用以外の箇所では *cookay* と表記する。

<sup>11</sup> ただし、Sato (1985) に挙げられている AN 系の例文の中には、二人称単数主格・一人称単数目的格 *e-i-* が用いられている例がある〔Sato 1985:157〕。

### 3.1.1. 二人称単数主格の場合 (in-, e-i-)

【アイヌモシリ】に収録の物語には、ほぼ同じ意味を表すと思われるセリフで、一人称目的格を表す in- と i- という二つの人称接辞が見られる。どちらも川上の者が川下の者を罵るときに用いられている。

(3) ホシキ コキクンペ イネトッパルシ<sup>12</sup> 【アイヌモシリ】 118]

hosiki ku-ki kun pe in-etohparusi

先に 1SG.S-する VP NOM 2SG.S.1SG.O-先駆けする

「先に私がしようとしたことを先駆けしやがって」

(4) ポシキ<sup>13</sup> アンキクンベ エエトッパルシ<sup>14</sup> 【アイヌモシリ】 118-119]

hosiki an-ki kun pe e-i-etohparusi

先に 1SG.S-する VP NOM 2SG.S-1SG.O-先駆けする

「先に私がしようとしたことを先駆けしやがって」

例文(3)と(4)のどちらも、同じ登場人物が同じ相手を罵った言葉であるが、注目すべきは in- が ku- と共起し、i- が an- と共起していること、さらに、二人称単数主格・一人称単数目的格が \*e-in- や \*i-<sup>15</sup> で表現されていないことである。Sato (1985) では in- が CI 系に属すると指摘しているが、KU 系と in- の共起は指摘していない。例文(4)の e-i- という形式は、東海岸での調査を元に編まれた、金田一 (1960[1912]:284 ; 1960:129) や Novikova & Savel'eva (2000[1967]:314) でも確認できる。例文(5)のように、e-i- が anoka(y) と共起する例が見つかるので、AN 系に属することがはっきりと分かる。つまり、二人称単数主格・一人称単数目的格の組み合わせには in- (KU, CI 系) , e-i- (AN 系) の 2 種類あることが分かる。

(5) sóнно urájki án- kusu néjke, eani eraj.

sonno u-rayki-an kusuneyke, eani e-ray.

本当に REC-殺す-1PL.S CONP PRON 2SG.S-死ぬ

Anókane jaxka, eirájki kumpene 【資料】 12, l.50-151]

anoka ne yahka e-i-rayki kun pe ne

<sup>12</sup> 【アイヌモシリ】の同話者の語りにも「ホシキ クキ クンペ イネトッパルス」【アイヌモシリ】 262] とある。また、同話者の語りも収録されている北海道教育庁生涯学習部生涯学習推進局文化・スポーツ課(編) (2007:123) でも「クキ クンペ イネトッパルシカラ 先に嘴をつっこみやがって」とあり、どれも ku- と in- が共起している。

<sup>13</sup> ホシキの誤記。なお、知里 (1973[1942]:469) によれば、樺太では hóski ではなく hosiki だという。

<sup>14</sup> また知里 (年代不詳:6) にも同じ言い回し「hoski an-ki kunpe e-i-(y)etohparusi !」(-と\_, ()は筆者が追加) がみられ、やはり an- と in- は共起していない。

<sup>15</sup> 服部 (1961:16) や村崎 (1976:50) によれば、西海岸北部ライチシカでは二人称単数主格・一人称単数目的格 (AN 系) は i- である。

PRON COP CONP 2SG.S-1SG.O-殺す VP NOM COP

「本当に果し合いをすれば、お前は死ぬ。私もお前が殺す（＝お前に殺される）のだ」

### 3.1.2. 二人称複数主格の場合 (eci-i-)

【物語】には、二人称複数主格・一人称単数目的格の人稱接辞として eci-i- という形式が見られる。eci-i- は管見の限り、この 1 例しか見つけられていない。金田一 (1955:746) には eci-in- のみ掲載されているが、その実例を筆者は確認できていない。

(6) タヌ克蘭、エチ、レウシ、テ、 エチ、イ、ヌカラ、アナツカ、【【物語】 163】

tanukuran eci-rewsi te eci-i-nukara anahka

今晚 2PL.S-泊まる CONP 2PL.S-1SG.O-会う ても

「今晚お前たちが泊まってお前たちが私に会っても」

なお、樺太西海岸北部のライチシカにおいて二人称複数主格・一人称複数目的格は eci-i-<sup>16</sup> と i- -yan (KU 系では en- -yan<sup>17</sup>) と報告されている [服部 1961:16 ; 村崎 1976:50]。i- が AN 系に属すると言う Sato (1985) の指摘や、この例文(6)に続く第 3 章第 3 節の 1 の例文(16)では eci- -yan (この -yan は -an と同じものと考えられる) が使われていることから、同一の文に出現する eci-i- は AN 系に属すると見られる。ライチシカ方言との対応から考えても、eci-i- は AN 系に属すると言える。

第 3 章第 1 節では二人称主格と一人称目的格の組み合わせについて確認したが、一人称主格と二人称目的格の組み合わせについては検討していない。以下ではそれらを検討する。

### 3.2. 二人称単数目的格

二人称単数主格・一人称単数目的格の場合にもクラスによる使い分けがあることを確認したが、ここでは一人称単数／複数主格・二人称単数目的格を表す人稱接辞に関して検討する。一人称単数に限って KU, CI 系と AN 系を表示し分ける (一人称において複数を表すのは AN 系のみである)。なお、三人称が主語の場合、主格人稱接辞は表示されないが、二人称単数目的格は e- で表される。例文(7)は、今まで養育していた理由をワシ神が少年に語る場面のものである。

(7) eani eréskekun kamúi, kamu ukopágari jaxka, 【【資料】 1, l.374-376】  
eani e-reske kun kamuy, kamuy uko-paakari yahka,

<sup>16</sup> 服部 (1961) のインフォーマントは村崎 (1976) と同じだが、eci-i- という形式は見られず、i- -yan のみ報告されている。

<sup>17</sup> 服部 (1961:16) では、樺太西海岸北部ライチシカで稀にしか用いられない CI 系についても報告されているが、CI 系の場合、un- -yan となるという。なお、藤山ハル氏によれば、cooka (~cioka) は西海岸南部の真岡あたりのことばで、一般にあまり用いないという [服部 1961:5]。

PRON 2SG.O-育てる VP 神 神 SOC-考える ても  
「お前を育てる神について神々が相談しあっても」

### 3.2.1. 一人称単数主格 (AN 系) の場合 (an-e-)

AN 系の一人称単数主格が、二人称単数を目的格にとる場合、人称接辞は主格と目的格が規則的に複合した an-e-となる。以下の例文(8)では、人称代名詞 anoka(y)と共起していることから、AN 系に属することが確認できる。山邊安之助から橋村弥八<sup>18</sup>へ語りかける場面である。

(8) イコロ、ポンノ、アノカ、オロワ、アネアンパレ、[[物語] 177]

ikoro ponno **anoka** orowa an-e-anpa-re  
お金 少し PRON から 1SG.S-2SG.O-持つ-CAUS  
「お金を少し私からお前へ持たせる」

【資料】の例でも an-e-は anoka(y)と共起する。例文(9)は、飢饉の神からオタシュツの長者へのセリフである。

(9) Anóka oróvano anèmakánke. [[資料] 22, l.55-56]

**anoka** orowano an-e-makan-ke.  
PRON から 1SG.S-2SG.O-山手へ行く-CAUS  
「私がお前を山のほうへ行かせた」

【物語】では、例文(8), (9)のように an-e-という形式しか見られない。これには KU, CI 系がほとんど出現しないことが関わっていると思われる(KU 系は 1 例(例文 22)、CI 系は 2 例)。

### 3.2.2. 一人称単数主格 (KU 系) の場合 (eci-)

KU 系が用いられる文において、一人称単数主格・二人称単数目的格として eci-という形式が用いられている。例文(10), (11)の両方ともクマ神の娘から少年へのセリフである。

(10) Támbe rénkajne ku vánteva kusu,  
Tampe renkayne ku-wante wakusu,  
この ため 1SG.S-分かる COMP  
sinik ónne ećimákánkehe rúhe né. [[資料] 25, l.79-80]  
sinik onne eci-makan-ke-he ruhe ne.  
自分の所(?) に 1SG.S.2SG.O-奥へ行く-CAUS-NOM COMP COP  
「そのため、私はそのこと(＝おじが少年を殺そうとしていること)を知って、自分の

<sup>18</sup> 山邊安之助も参加する南極探検のため、樺太犬 30 頭を護送し、シドニーまで赴いている。山邊安之助と同じく、移住先の北海道から樺太へ帰還し富内村で暮らしていた。



所へ(?)お前を来させたのです」

- (11) ku-mátakhi, eski, ećisámte kusu,  
ku-matak-hi, eski, eci-sam-te kusu,  
 1SG.P-妹-POSS FIL 1SG.S.2SG.O-結婚する-CAUS CONP  
 ećikorúra rúhe né [【資料】 25, ㊦.82-85]  
 eci-ko-rura ruhe ne  
 1SG.S.2SG.O-APPL-運ぶ COMP COP

「自分の妹を、私はお前と結婚させるため、(妹を) お前の元へ連れて来たのです」

なお、一人称単数主格・二人称単数目的格の eci-は、樺太西海岸北部ライチシカ方言においても確認できる〔服部 1961:15 ; 村崎 1976:50〕。

### 3.2.3. 一人称単数主格 (CI 系) の場合 (eci-)

第 3 章第 2 節の 2 において、KU 系では一人称単数主格・二人称単数目的格人称接辞として eci-が用いられることを確認した。この eci-は CI 系とも共起することがある<sup>19</sup>。以下の例文(12)は、仮小屋にいたある長者の元に現れた妻 (実は雌グマ) が、仮小屋から出ていく時に長者に放つセリフである。

- (12) "náxte aśipás -ćikin, paj-aś śirhi eći nukáandy" [【資料】 13, ㊦.24]  
 "nahte asip-as cikin, pay-as sirihi eci-nukan-te",  
 そうして 外に出る-1SG.S CONP 行く-1SG.S COMP 1SG.S.2SG.O-見る-CAUS  
 「そうして私が外に出たら、私が行く様子をあなたに見せます」

KU 系と CI 系は、第 3 章第 1 節で検討した目的格人称接辞でも共通の形式 in-を持つことから、主格人称接辞 (目的格と複合していない場合) 以外では、KU 系と CI 系の区別がなされていないことが強く示唆される。

### 3.2.4. 一人称複数主格の場合 (an-e-)

一人称複数主格・二人称単数目的格人称接辞は an-e-となる。これは一人称単数主格 (AN 系) の場合と変わらない。以下の例文(13)は山邊安之助が、息子の八代吉と甥の富次郎から言葉をかけられている場面である。

- (13) タヌ克蘭、レウシ、アナツシ、テ、ランネノ、アネヌカラツシ、テ、[【物語】 162-163]  
 Tanukuran rewsī-an-ahsi te ranneno an-e-nukara-hsi te

<sup>19</sup> 服部 (1961:16) では、樺太西海岸北部ライチシカで稀にしか用いられない CI 系についても報告されているが、一人称単数主格・二人称単数目的格人称接辞はやはり eci-だという。

今晚 泊まる-1PL.S-PL CONP ゆっくり 1PL.S-2SG.O-会う-PL CONP  
「今晚、私たちは泊まってゆっくりと私たちはあなたに会って」

以下の例文(14)では一人称複数専用の人称代名詞 **anokayahsin** が用いられており、一人称複数であることが、さらにはっきりしている。この例文は、山邊安之助が片手で俵を担げると豪語したことに対して、女性たちが放った言葉である。ここで目的格で表されているのは山邊安之助である。

(14) アノカイ、アツシン、ネアンペ、ハネ、アネヌカラ、 スイ、シネイタ、  
**anokayahsin** neanpe hane an-e-nukara suy sine ita  
PRON TOP NEG 1PL.S-2SG.O-見る また 一つ 言葉  
へネ、アナツカイキ、ハネ、アイ、イエー、クス、イキ 【物語】 37]  
hene anahkayki hane ay-(an-)yee kusuiki  
も でも NEG 1PL.S-言う VP  
「私たちはお前に会わない。また一言であつても言わないつもりだ」

第3章第1節からここまでの結果を表にまとめると以下のようになる(表2)。KU系とCI系は人称代名詞、主格人称接辞以外は全て共通している。

表2. 樺太アイヌ語東海岸方言における一人称のクラスと主格目的格人称接辞

略称	一人称代名詞	自動詞主格／他動詞主格	他動詞目的格	二人称単数主格・一人称単数目的格	一人称単数主格・二人称単数目的格	使用域
KU系	kuani	ku-/ku-	in-	in-	eci-	単数・セリフ(民話)
CI系	cookay	-as/ci-				
AN系	anokay	-an/an-	i-	e-i-	an-e-	限定なし

### 3.3. 二人称複数目的格

第3章第2節では、二人称単数が目的格の場合の主格目的格人称接辞の使い分けを確認したが、この節では二人称複数が目的格の場合を検討する。主格人称接辞が表示されない三人称が主語の場合、二人称複数目的格は **eci-** で表される。例文(15)はトンナイチャ(後の富内村)に上陸した日本軍がアイヌ人たちへ発したセリフである。

(15) 『ヌチャ、ウタラ、ポローノ、エンノ、エチ、カラ、 ネー、ナンコー、』 【物語】 103]  
nuca utara poroono wenno eci-kara nee nankoo  
ロシア人 PL 大いに 悪く 2PL.O-する(-NOM) COP VP

「ロシア人たちがお前たちを大いに悪く扱っただろう」

以下では、主格目的格人称接辞において、二人称複数目的格がどのように表示されるのかを見ていく。

### 3.3.1. 一人称単数主格 (AN 系) の場合 (eci- -yan)

以下の例ははっきりと一人称単数から二人称複数への行為だと分かる例である。山邊安之助が息子の八代吉と富次郎に話しかけている部分である (例文 6 に続く部分である)。

(16) タニ、テー、タ、イルカエ、エチ、ヌカラ、ヤン、アナツカ、【【物語】 163】

tani tee ta irukae eci-nukara-yan anahka  
今 ここで 少しの間 2PL.O-会う-1SG.S CONP  
「今ここで少しの間、私がお前たちに会っても」

この eci- -yan という形式は、AN 系に属すると考えることができる。実際に以下の例文(17)では eci- -yan と an-が共起している。

(17) okánkino ам-мáхпоһо-син эцй сáмтэ-ян русуйи  
okankino an-mahpo-ho-sin eci-samte-yan rusuyi  
わざと 1SG.P-娘-POSS-PL 2PL.O-結婚させる-1SG.S VP  
кусуй анки́һи; 【【Tuita】 10, l.26-27】  
kusu an-ki-hi.  
CONP 1SG.S-する-NOM

「私はわざと、娘たちをお前たちと結婚させたくて、(お前たちが殺した白鳥を持っていくことを) したのだ」

金田一 (1955:746) には、一人称単数主格・二人称複数目的格として an-eci- という形式が挙げられているが、以上の例文(16), (17)のように AN 系のものとしては eci- -(y)an という形式しか確認できない。

### 3.3.2. 一人称単数主格 (CI 系) の場合 (eci- -yan)

CI 系の一人称単数主格・二人称複数目的格と考えられる例としては、以下の 2 例しか確認できない。どちらも CI 系と共起しているが、例文(18)において一人称単数主格・二人称複数目的格は eci- -yan という形式、例文(19)においては eci- という形式である。ただし、例文(19)では動詞 kara 「～を作る」にも主格人称接辞が表示されていないため、eci-yanke にも主格の人称が表示されていない可能性が高い。人称代名詞 cookay が主語になる名詞として、つまり三人称として扱われているからだと思われる (第 3 章第 4 節参照)。

- (18) Náxte ašípaš óiki, óikóro óísehe kamúi óíse  
nahte asip-as ciki ci-koro-cise-he kamui cise  
そうして 外に出る-1SG.S COMP 1SG.P-持つ-家-POSS 神の 家  
ečíkourénkare-ján. [【資料】 25, ℓ.96]

eci-ko-urenkare-yan.

2PL.O-APPL-揃える-1SG.S

「そうして私が出て行ったら、私の家、神の家を、私はお前たちに持たせてやる」

- (19) sístur ájnu utara óókaj orovano rámhū karáte,  
sisturaynu utara, **cokay** orowano ram-hu kara te  
道に迷う 人々 PRON から 心-POSS 作る COMP  
tán ói kotan oxta ečí janke, [【資料】 6, ℓ.9]

tan ci-kotan ohta eci-yanke

この 1SG.P-村 に 2PL.O-上げる

「道に迷った者たちよ、私が思案して、この私の村にあなたたちを上陸させました」

二人称複数目的格の例は少ないが、例文(16)～(18)からは、AN系でもCI系でも同じく *eci-yan* という形式であることが分かる (KU系は確認できていない)。これは服部 (1961:14) や村崎 (1976:50) で報告されている西海岸北部ライチシカ方言でも同じである。ライチシカ方言でも二人称複数目的格の場合、一人称単数主格が KU系と AN系のどちらであっても人称接辞は *eci-yan* であり、AN系と KU系で形態に区別がないことが指摘できる<sup>20</sup>。

### 3.3.3. 一人称複数主格の場合 (*eci- (y)an*)

以下は一人称複数主格・二人称複数目的格の例である。形態上、AN系の一人称単数主格・二人称複数目的格 (例文 16, 17 参照) と同じく *eci-yan* であり、主格が一人称単数でも複数でも区別されない。以下の例(20), (21)はロシア人たちがトンナイチャ (後の富内村) のアイヌ人たちへ放ったセリフである。

- (20) 『ネア、オツタ、ナハ、アン、キー、アニ、エチ、ライケ、アン、クス、イキ、』

“nea ohta nah an-kii ani eci-rayke-an kusuiiki.”

その ときに こう 1PL.S-する COMP 2PL.O-殺す-1PL.S VP

ナハ、 イエーシ [【物語】 89]

nah yee-si

<sup>20</sup> 北海道を含めたアイヌ語のどの方言でも KU系、CI系において二人称複数目的格の場合に \*ku-eci-, \*ci-eci- という複合形式は確認できない。例えば沙流方言では KU系、CI系のどちらの場合も *eci-* である [田村 1988:26]。

QUOT 言う-PL

「『その時はこうしながら私達はお前たちを殺すつもりだ』と(ロシア人たちは)言った」

(21) 『エンノ、エチ、キー、クス、エムイケ、ウチャーナツテチセ、オンネ、

“wanno eci-kii kusu emuyke ucaanahtecise onne  
悪く 2PL.S-する CONP 全員 牢屋 に

エチ、ルーラ、アン、クス、』ナハ、イエーシ、[【物語】93]

eci-ruura-an kusu” nah yee-si

2PL.O-運ぶ-1PL.S F QUOT 言う-PL

「『お前たちは悪く行動するから私たちはお前たち全員を牢屋に連れて行く』と(ロシア人たちは)言う」

なお、例文(20),(21)の eci- -(y)an は金田一(1955:746; 1960:128-129)で報告されていない形式である(服部(1961:14); 村崎(1976:50)には見られる)。金田一(1955:746; 1960:128-129)が報告している an-eci- という形式は、本稿で対象としたテキストでは確認できない。金田一(1955:746)が提示する二人称複数主格・一人称単数目的格 eci-in や、一人称単数主格・二人称複数目的格 an-eci- も同じく用例を確認できないが、これらは金田一が主格人称接辞と目的格人称接辞を規則的に組み合わせて提示したものではないかと思われる。

### 3.4. 人称代名詞が用いられた場合の主格目的格人称接辞

以上では主格目的格人称接辞に関して述べてきたが、人称代名詞が用いられた場合に、本来想定される主格目的格人称接辞が用いられないことがある(例文 19 も参照のこと)。

(22) クアニ、エ、エラムシカリ、ヒ、タン、ク、ナヌフ、 エ、エラムシカリ、ヒ、

**kuani** e-eramuskari-hi? tan ku-nan-uhu e-eramuskari-hi?

PRON 2SG.S-知らない-NOM この 1SG.P-顔-POSS 2SG.S-知らない-NOM

「私を知らないのか?この私の顔を知らないのか?」[【物語】44]

eramuskari 「～を知らない」の目的語は kuani で表されているように、一人称単数であることが明らかであるが、eramuskari に付加された人称接辞には一人称目的格が表示されていない。人称接辞 e- は二人称主格を表しているが、一人称目的格を表していない(一人称目的格を表す場合は in-eramuskari が想定される)。ここでは人称代名詞が、名詞として扱われているため<sup>21</sup>、動詞に目的格が表示されないのだと思われる(三人称目的格と同じ形式になる)。

<sup>21</sup> 普通、人称代名詞を使用する場合でも、人称接辞は義務的に付加される。知里(1973[1942]:547)が指摘するように、人称代名詞は主語や目的語にならず、副詞のような位置に立つ。ただし、常に連用的に用いられるわけではなく、副助詞やある種の終助詞の前など構文上省略不可能な場合もある[田村1997[1988:32]:26]。

また、以下のように主格と目的格が別の語幹に表示されることもある。

- (23) アノカ、ネ、アナツカイキ、エチオカイ、エチ、ウエオマンテ、ハネ、アン、キーノ、  
anoka ne anahkayki eciokay eci-ueomante hane an-kii no,  
PRON COP あつても PRON 2PL.O-案じる NEG 1SG.S-する で  
「私もまた、お前たちを案ずることはせずに」〔【物語】 162〕

この例文でも主格と目的格は同時に表示されていない。動詞 ueomante「～のことを案じる」には目的格の eci- のみ表示され、その後の動詞 kii「～をする」に主格 an-が表示されている (eci-ueomante 全体が語彙的な内容のない形式的な動詞 kii の目的語となっている)。

#### 4. 『アイヌ語ロシア語辞典』の用例から

以下では、一人称のクラスという点に関して Добротворский (1875) (以下、【辞典】) を資料に考察する。【辞典】は実際の生活の中で採録されたと思われる単文や語彙が収録されている。中川 (1985) でも紹介されているように、ドブロトヴォルスキーは 1867 年から 5 年の間、サハリンで医者として働き、親しくアイヌの人々と付き合い、言葉や文化を記録した。【辞典】に記録されたドブロトヴォルスキー自身が採録した語彙・例文はかなり信頼のおけるものである。採録地は多くの場合不明だが、例文に出てくるサンバク(シ) Sambaku(s)<sup>22</sup> という男性はナヨロ<sup>23</sup>出身であると記載されている。例文は東海岸のものでない可能性も高いが、人称表示の点からは前章までの分析と矛盾しない。以下に引用した例文がどのような意味で使われたのかを知るために、例文の訳はドブロトヴォルスキーによるロシア語訳を日本語訳したものとした (日本語訳の際、寺田 1995~1997、寺田・安田 2009~2018 も参照した)。

- (24) Квани Самбаку охта тамбаку ку контэ.  
**kuani** Sambaku ohta tampaku ku-konte  
PRON サンバク(人名) に 煙草 1SG.S-与える  
「私はサンバク (アイヌ) に煙草をあげた」〔【辞典】 238〕

- (25) Чокай Самбаку охта тамбаку чи контэ.  
**cokey** Sambaku ohta tampaku ci-konte,  
PRON サンバク(人名) に 煙草 1SG.S-与える  
「私はサンバク (アイヌ) に煙草をあげた」〔【辞典】 420〕

<sup>22</sup> 【辞典】序章に、ナイェロ(Найеро) (註一名寄(なより)、現ベンゼンスコエ) 出身のアイヌとある。Радковский (1876:20) においてエペケレルムЭпекерерум (シラロロ (白浦) Сирароро から 4 露里の集落) で「サンバクシアイヌ Самбакус-айну」と記録されている男性と同一人物の可能性がある。

<sup>23</sup> このナヨロ (ナイェロ) は真縫の北方 131 露里にある内路 (ないろ、現ガステロ) ではなく、クスナイ (久春内) の南方 8 露里にある名寄 (なより、現ベンゼンスコエ) [地名、距離は【辞典】 182 頁参照]。

上の二例は *kuani, ku-* (KU 系) と *cookay, ci-* (CI 系) が入れ替わっていること以外に違いはなく、同じ事態を表現していると考えられる。主格人称接辞 *ku-*には人称代名詞 *kuani* が、主格人称接辞 *ci-*には人称代名詞 *cookay* が呼応している。以下の例があることから、KU 系 CI 系はやはりほとんど同じクラスとして扱われていると言える。

(26) Чокай куэрамàнь

**cokey** ku-eraman

PRON 1SG-分かる

「私は分かる (理解した)」 [【辞典】 150]

なお、民話資料である【資料】の中で KU 系と CI 系が一つの文、談話の中で共起している例があることは、すでに Sato (1989) でも指摘されている (例文 1 参照)。ここで挙げた例文 (26)は、民話ではなく口語のものである点で、Sato (1989) の指摘は口語にも当てはまると言える。

例文(24)の動作主と受け手 (サンバク) が入れ替わった文がみられる。

(27) Самбаку квани охта тамбаку инь контэ.

Sambaku **kuani** ohta tampaku in-konte

サンバク (人名) PRON に 煙草 1SG.O-与える

「サンバクが私に煙草をくれた」 [【辞典】 238]

例文(27)からは、目的格人称接辞 *in-*が KU 系の人称代名詞 *kuani* と呼応していることが確認できる。これによって第 3 章第 1 節の 1 で述べたことが裏付けられる。次に「私」が動作主になった場合には以下のようなになる。

(28) Квáни оро́вано та́мбаку э́ци ко́нтэ.

**kuani** orowano tampaku eci-konte

PRON から 煙草 1SG.S.2SG.O-与える

「私がお前に煙草をあげた」 [【辞典】 230]

ここで目的格は人称代名詞として表現されていないが、人称接辞 *eci-*はやはり一人称単数主格・二人称単数目的格を表しており、人称代名詞 *kuani* と共起するという点が指摘できる。それは「Э́ци ко́нтэ (Eci-konte) (私は) お前に与える (贈る)」 [【辞典】 469] という例でも確認できる。

そして、一人称単数主格・二人称単数目的格の *eci-*は、以下の例から CI 系の人称代名詞 *cookay* と共起することが分かる。ここでも第 3 章第 2 節で述べたことが裏付けられる。

(29) Чокай эани-еци койки

coḱay eani eci-koyki

PRON PRON 1SG.S.2SG.O-叩く

「私はお前を引っぱたいた」【辞典】453]

例文(29)の主語と間接目的語が入れ替わった文は以下のようになる。

(30) Чокай эани-инь койки

coḱay eani in-koyki

PRON PRON 2SGS.1SG.O-叩く

「私をお前は引っぱたいた」【辞典】453]

一人称単数主格・二人称単数目的格の人称接辞 *eci-* は人称代名詞 *eani*<sup>24</sup>, *coḱay*, *kuani* と共起し、二人称単数主格・一人称単数目的格の人称接辞 *in-* もまた人称代名詞 *eani*, *coḱay*, *kuani* と共起することから、主格目的格人称接辞 *eci-*, *in-* は、*KU* 系と *CI* 系とで使い分けがなされていないことが分かる。これは第3章第2節の表2でまとめたことと一致する。

以上、【辞典】の例文(24)～(30)からは、*kuani* は *ku-*, *in-*, *eci-* と共起し、*coḱay* は *eani*, *ci-*, *ku-*, *in-*, *eci-* と共起することが確認できる。このことから、*KU* 系と *CI* 系が一つの文の中にも混在すること、一人称単数主格・二人称単数目的格と二人称単数主格・一人称単数目的格の場合、*KU* 系と *CI* 系で主格目的格人称接辞に区別が見られないことが導かれる。このことは、Sato (1985) で指摘された一人称の使い分けや、本稿で指摘した主格目的格人称接辞において *KU* 系と *CI* 系の間に区別がないという主張を補完するだけでなく、【辞典】の資料としての可能性を示すものである。

## 5. まとめ

以上、樺太アイヌ語における人称のクラスと主格目的格人称接辞を検討した。その結果、以下のことが指摘できる。Sato (1985) では、一人称単数を表す *AN* 系と *KU* 系、*CI* 系のうち、*KU* 系と *CI* 系は混在することもあり区別がはっきりしないことが指摘されていたが、本稿では、一人称目的格人称接辞に関しても *KU* 系と *CI* 系の間に区別は見られないことを指摘した (Sato 1985 では、*in-* は *CI* 系としてのみ扱われている)。さらに、主格と目的格を表示する主格目的格人称接辞の一部においても、*AN* 系と *KU*, *CI* 系とが区別されているが、*KU* 系と *CI* 系の間に区別は見られないことを示した。これは【辞典】の例文のような口語資料においても確認することができる。

一人称目的格 *i-* と *in-* の差異はすでに Sato (1985) で指摘されているが、本稿では新たに主

<sup>24</sup> *eani* は二人称単数を表す人称代名詞である。二人称単数主格、二人称単数目的格に呼応する。



格目的格人稱接辞においても、AN 系と KU, CI 系は異なる形式を持つことを指摘した。AN 系では主格人稱接辞と目的格人稱接辞が規則的に複合した e-i-となるのに対し、KU, CI 系における二人称単数主格・一人称単数目的格は不規則な形式 in-である。また、一人称単数主格・二人称単数目的格の場合、AN 系では規則的な形式 an-e-となるのに対し、KU, CI 系では不規則な eci-となる。ただし、目的格が複数になる場合、どのクラスでも AN 系の表示が用いられる。一人称複数目的格の場合、i-（三人称主格）、eci-i-（二人称複数主格）、e-i-（二人称単数主格）というように規則的な主格目的格人稱接辞をとる。二人称複数が目的格になる場合は、AN 系でも CI 系でも（KU 系の用例は確認できていない）、eci- -yan という形式になる。

以上のことから、主格か目的格かを問わず、一人称の表示として AN 系が用いられた場合、主格人稱接辞と目的格人稱接辞が規則的に複合された主格目的格人稱接辞をとることが指摘できる。さらに目的格が複数の場合、主格か目的格かに関わらず、一人称は AN 系の人稱接辞のみをとり、主格目的格人稱接辞は規則的な形式をとることが指摘できる。これらの特徴は樺太西海岸北部ライチシカ方言と若干異なっている（表 3, 4 参照）。

Sato (1985) と本稿で述べたことをまとめると、以下の表 3 のようになる。表 3 では、KU, CI 系を一人称単数として扱い、AN 系を一人称複数として扱っている。AN 系は、意味的には単数としても用いられるが、形態的には複数として用いられるためである（単複の区別のある自動詞の場合、複数形に接続する）。三人称主格・三人称目的格を空欄にしてあるのは人稱接辞が表示されないためである。参考にライチシカ方言の主格目的格人稱接辞もあわせて掲載するが（表 4）、本稿では-(a)hci を人稱接辞として扱わないので（註 2 参照）、表から-(a)hci は除外した。

表 3. 樺太東海岸方言の主格目的格人稱接辞

目的格		一人称		二人称		三人称
		単数	複数	単数	複数	
一人称	単数	X		eci-	eci- -yan <sup>25</sup>	ku-, ci-
	複数			an-e-	eci-, -(y)an	an-
二人称	単数	in-	e-i-	X		e-
	複数	? <sup>26</sup>	eci-i-			eci-
三人称		in-	i-	e-	eci-	

表 4. 樺太ライチシカ方言の主格目的格人稱接辞（村崎 1976:50 を基に作成）

目的格		一人称		二人称		三人称
		単数	複数	単数	複数	
一人称	単数	X		eci-	eci- -yan	ku-

<sup>25</sup> 第 3 章第 3 節で CI 系のものを確認したが、KU 系に関しては確認できていない。

<sup>26</sup> ライチシカ方言では en- -yan とある〔服部 1961:16；村崎 1976:50〕。en- と in- が対応すると考えれば in- -yan だが、確認できていない。金田一（1955:746）には eci-in- とある。

	複数			an-e-	eci- -yan	an-
二人称	単数	en-	i-	X		e-
	複数	en- -yan	i- -yan, eci-i-			eci-
三人称		en-	i-	e-	eci-	

### 謝辞

貴重なコメントを下さった匿名の 2 名の査読者の方に心より感謝を申し上げます。また、指導教員である中川裕先生、論文を読んでコメントを下さった相原典明さん、浦野和枝さん、吉川佳見さんにも深く感謝を申し上げます。

### グロス略号一覧

1,2,3,	1,2,3 人称	FIL	言いよどみ	Q	疑問
APPL	充当接頭辞	NEG	否定	QUOT	引用
CAUS	使役	NOM	名詞化	S	主格
COMP	補文化辞	O	目的格	SG	単数
CONP	接続助詞	P	所有格	TOP	主題
COP	繫辞	PL	複数	VP	助動詞
EMP	強調	POSS	所属形		
F	終助詞	PRON	人称代名詞		

### 参考文献

#### 【ロシア語文献】

Добrotворский, М. М. (1875) *Аинско-Русский Словарь*. Казань.

Пилсудский, Б. (2002) *Фольклор Сахалинских Аинов*, Южно-Сахалинск: Сахалинское книжное издательство.

Радковский, А. Я. (1876) Перепись айнов Южного Сахалина 1876 года (1) (*Исторические чтения No.1, Государственный архив Сахалинской области*, 1995, сс. 6-27) .

#### 【英語文献】

Novikova, K. A. & Savel'eva, V. N. (2000[1967]) Hattori, T. (訳) "On the Problem of the Languages of the Native Races of Saxalin Ainu". In: 『服部健著作集—ギリヤーク研究論集—』北海道出版企画センター、pp.309-315.

Piłsudski, B. (1912) *Materials for the Study of the Ainu Language and Folklore*. Cracow.

SATO, T. (1985) "The First Person Objective Affix *in-* in the East Coast Dialects of Sakhalin Ainu". In: Executive Committee of the International Symposium(ed.) *Proceedings of the International Symposium on B. Piłsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture*. Hokkaido University. pp.157-167.

#### 【日本語文献】

浦田遊(編) (1998) 『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』釧路アイヌ文化懇話会.

切替英雄 (1989) 「アイヌ語の人称接語の不定人称形と一人称複数形」(第 97 回大会研究発表要旨) 『言語研

- 究』95号、pp.286-287.
- 金田一京助（1955）「アイヌ語」市河三喜・服部四郎(編)『世界言語概説 下巻』研究社.
- 金田一京助（1960[1912]）「アイヌ語学上の一問題」金田一京助博士喜寿記念編集委員会編『金田一京助博士喜寿記念 アイヌ語研究 金田一京助選集 I』三省堂、pp.269-288.
- 金田一京助（1960）「アイヌ語学講義」金田一京助博士喜寿記念編集委員会編『金田一京助博士喜寿記念 アイヌ語研究 金田一京助選集 I』三省堂、pp.1-244.
- 阪口諒（近刊）「山本多助筆録アイヌ語権太方言テキスト(1)―「カラフト・ウベペケレ（オプケ ネワ イコロ ウペペケレ）」―」『北方人文研究』12.
- 田村すず子（1988）「アイヌ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)『言語学大辞典 第1巻 世界言語編（上）』三省堂、pp.6-94.
- 知里真志保（1973[1942]）「アイヌ語法研究―権太方言を中心として―」『知里真志保著作集 3』平凡社、pp.456-586.
- 知里真志保（1973[1955]）「アイヌ Ainu」『知里真志保著作集 3』平凡社、pp.231-244.
- 知里真志保（年代不詳）「知里真志保遺稿ノート No.149」北海道立図書館所蔵マイクロフィルム（未公刊）.
- 寺田吉孝（1995-1997）「M. M. ドブロトウヴォールスキーのアイヌ語・ロシア語辞典(1)～(5)」『北海学園大学学園論集』84-91号.
- 寺田吉孝・安田節彦（2009-2018）「M. M. ドブロトウヴォールスキーのアイヌ語・ロシア語辞典(6)～(23)」『北海学園大学学園論集』142-175号.
- 中川裕（1985）「ドブロトウヴォールスキーの『アイヌ語ロシア語辞典』について」ナウカ(編)『窓』52号、pp.14-17.
- 中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』草風館.
- 中川裕（2011）「アイヌの神話における叙述者の人称」北方言語ネットワーク編『北方言語研究』第1号、北海道大学大学院文学研究科、pp.139-156.
- 服部四郎（1961）「アイヌ語カラフト方言の『人称接辞』について」『言語研究』39、pp.1-20.
- 服部四郎(編)（1964）『アイヌ語方言辞典』岩波書店.
- 村崎恭子（1976）『カラフトアイヌ語』国書刊行会.
- 北海道教育庁生涯学習部生涯学習推進局文化・スポーツ課・編（2007）『知里真志保フィールドノート(6)』北海道教育委員会.
- 山邊安之助(著)・金田一京助(編)（1913）『あいぬ物語 附あいぬ語大要及語彙』博文館.

#### 執筆者紹介

氏名：阪口 諒（さかぐち りょう）

所属：千葉大学人文公共学府博士前期課程2年